

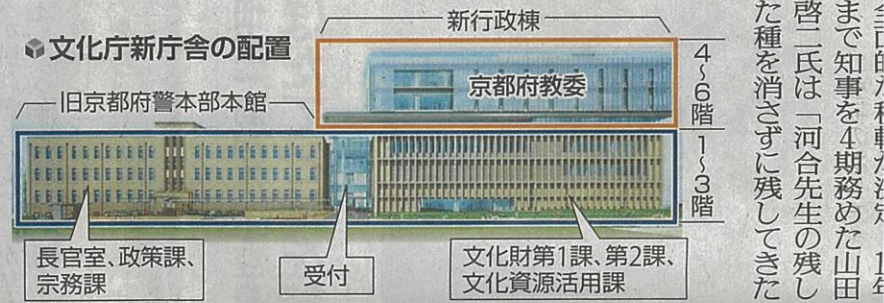
# 文 30年致誘



## 長官は「UFO」の都倉さん

京都移転後の「初代長官」となる都倉俊一氏は1948年生まれ。東京都出身で、学習院大在学中に作曲家としてデビュー。78年にはピンク・レディーが歌った「UFO」で日本レコード大賞に輝いた。山口百恵さんの「ひとつもとまらない」、山口百恵さんの「ひと夏の経験」、狩人の「あずさ2号」なども手がけ、ヒットメーカーとして知られる。日本音楽著作権協会会長などを歴任し、2021年4月に第23代長官に就任。コロナ禍で苦境に立つ芸術家への支援に尽力してきた。他国に比べエンターテインメントの「海外輸出」が不十分などと、日本の文化政策の問題点を指摘している。

存在感発揮が課題  
京都にとって、文化庁移転は悲願だった。1980年代から京都には「文化首都」として再興すべきだという議論が根強くあった。



新庁舎2棟構成  
文化庁の新庁舎は、京都府西側の京都府庁の敷地内にあり、改修、新築された2棟で構成される。旧京都府警本部本館(3階建て、約4400平方メートル)には、長官室や宗教法人の認可を行う宗務課などが入る。京都で行われた昭和天皇の「即位の礼」に合わせた1928年に建設された近代建築で、文化財登録をする。

京都で文化振興を担ってきた関係者からは期待の声が上がった。  
視野に外観やステンドグラスなどの装飾は残した。新設の新行政棟(6階建て、約9280平方メートル)は文化財の保護や活用を担う部署が使用。4〜6階には京都府教育委員会が入る。2棟は昨年12月に完成。庁舎整備費91億円は京都府が負担した。文化庁の入居相当部分は38億円。府が相場の半額の年約1億4000万円を文化庁に貸与する。

# 国産量子計算機が稼働

## 理研など 米国先行、巻き返し

政府が国産初号機と位置付ける次世代計算機「量子コンピュータ」が27日、理化学研究所(埼玉県和光市)で稼働した。量子コンピュータは現在のスーパーコンピュータを上回る性能を持つ可能性があるため、世界各国が開発に力を入れている。米国などが試験機

の開発でリードする中、実用化に向けた競争で巻き返しを目指す。初号機は、政府が2018年度から約25億円を投じ、理研や大阪大、富士通、NTTなどが開発した。計算を実現させる素子「量子ビット」に超伝導回路を用いる。中村泰信・量子コンピュータ研究センター長は、記者会見で、「実機の運用で

凍機の中で、最大64個の量子ビットを制御して計算する。27日午前、クラウドサーバーを使い、共同研究する大学や研究機関の利



稼働した国産初号機の量子コンピュータと開発を主導した中村泰信センター長(27日午前、埼玉県和光市の理化学研究所で)

ミクロの世界に特有な物理法則「量子力学」を利用して計算するコンピュータ。0と1のデジタル信号のみによる情報処理と異なり、「0でも1でもある状態」を使うため、既存のコンピュータが苦手とする種類の問題を、桁違いの速さや精度でこなせる可能性がある。材料開発などへの応用が期待されている。

継続的な利用環境を整備・拡大し、量子分野を広げ

を徐々に広げていく方針。利用を通じて装置やソフトウェアの育成につなげていく考えだ。



課題も山積み  
開発長期戦も  
今回、国産初号機が稼働した量子コンピュータは、将来実用化されれば、材料開発、金融への応用など、産業競争力を飛躍的に高める可能性を秘

近年になって、計算に使う量子ビットを制御する技術が進み、各国が試験機の開発に力を入れている。2019年には米グーグルが、53個の量子ビットで、スーパーコンピュータでは1万年かかる数学的な問題を3分20秒で解いたと発表。国内でも21年、米IBM製の商用機が川崎市で稼働した。

霧馬山「我慢してよかった」  
初優勝から一夜喜び語る  
大相撲春場所ので逆転初優勝を果たした新関脇の霧馬山(26) (陸奥部屋) が千秋楽から一夜明けた27日、堺市の陸奥部屋宿舎で記者会見し、「(モンゴルから来日して) 最初の1年は言葉も分からなくてつらかった。何回も辞めたかったけど、8年我慢してやってきて、落として12勝3敗で並び、小結だった今年の初場所5月の夏場所は12勝。かける場所になる。霧馬山関は、まだ上の番付がある」と気を引き締めていた。

Advertisement for 'Haru no Yume' (ハルメク) magazine. It features a woman's face and text promoting the magazine as a 'simple and free' subscription service. The main headline says '4月号' (April issue). Other text includes '日本で一番読まれている女性誌' (Japan's most read women's magazine) and '送料無料でご自宅に直接お届け' (Delivered directly to your home with no shipping fee). Pricing is listed as 6,960 yen per year (12 issues) plus 580 yen per issue. There are also smaller boxes with text like '小物' (Accessories), '服選び' (Clothing selection), and '着' (Wearing).